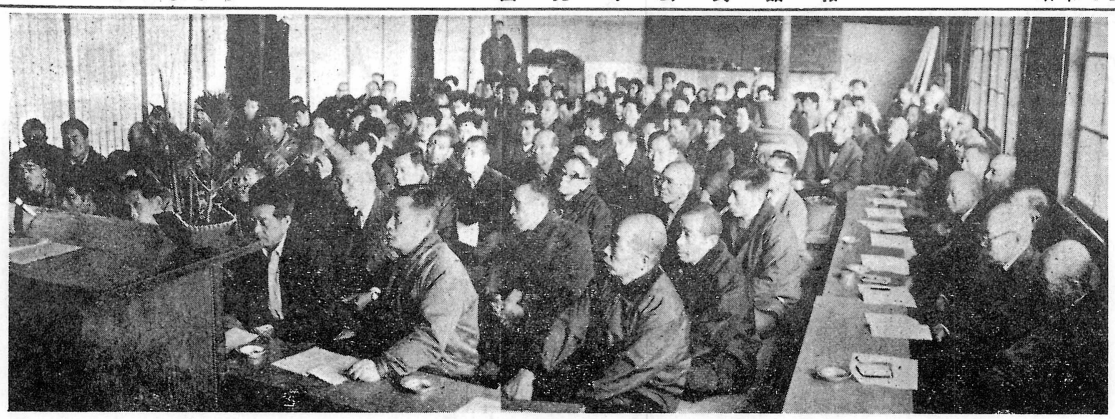
◎二月二十日（第三日曜日）は家庭の日です。みんなの話し合いで楽しい一日を送りましょう

くにみ

【才100号】
昭和41年1月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所



新しい農業の話に耳をかたむける　1月11日農業振興大講演会の盛況（於藤田小　師講　福大　角田武雄先生）

ありのままを正しく
40年度農業基本調査

福島県の農業に関する実態を調査し、農業施策の基礎資料を得ることを目的として例年行って参りました福島県農業基本調査が、本年度も、次の要領で行われます。

この調査は、農業に関する各種の資料を作る統計の目的以外に使用することは絶対ありませんので、ありのままを申告し、正しい資料が得られるよう、農家のみなさんのご協力をお願いいたします。

農業基本調査の要領

◎調査期日
昭和41年2月1日現在により行います。

◎調査の範囲
調査期日に現在する経営耕地面積一反歩以上、又は期日前一年間における農業生産物の販売総額3万円以上の農家とします。

◎調査事項
一、世帯員（兼業の状態、出稼の状態、年間の異動）
二、家畜、養蚕（飼育頭羽数、生産販売頭羽数）
三、経営耕地面積、水田水源別面積
四、農用機械（所有台数）
五、農業雇用労働（雇用形態、別労働力）
六、農作物収穫面積、穀類収穫量

◎調査方法
調査員が担当調査区を巡回し、調査票による面接きき取り調査をいたします。
（総務課）

農業委員選挙
人名簿の閲覧

昭和四十年十二月一日現在により調製した農業委員会委員選挙人名簿を次により関係人の縦覧に供します。

昭和四十一年七月には、農業委員の選挙が行われる見込みなので、関係の方々は、期間中によく名簿をご覧になって、登録もれなどないようにしてください。

◎縦覧の期間
昭和41年1月20から2月3日まで

◎縦覧の場所
国見町役場住民課窓口
（選挙管理委員会）

泣き寝入り無用！
（気軽に検察審査会へ）

詐欺、おどし、交通事故などの被害にあって、警察や検察庁に訴えたが、検察官がその事件を裁判にかけてくれない。どうも納得できない。

こんな不満をもっているかたはいませんか。

そういうかたは、そのまま泣きねいりしないで、検察審査会（福島地方裁判所構内電話二二五六番）にご相談ください。

検察審査会とは、選挙人名簿に登載された者のなかから抽選で組織された国民の代表者十一人で組織され、検察官のしごとのやりかたを審査するための制度です。

町政十大ニュース
（館報編集局選定）

年末になると、世界各国の大新聞から地方の中小新聞にいたるまで、その年におけるいろいろな大ニュースを選んで紙面に掲げ、社会の話題をにぎわしている。世界の十大ニュース、国内の十大ニュース、県内の十大ニュース、それも政治、経済、社会、スポーツ、教育……各界にわたり興味深く並べ、中には人気投票までして関心を高めているものもある。われわれ老人はとかく健忘症にかかり、よほどの大事件でもないかぎり、半年もたたぬうちに忘れてしまうことが多いので、年に一度、こうして復習してみるということであり、社会の流れを大局から眺めるのに大変役立つものである。

さて、わが町にも社会をにぎわした事件がいくらかあったようだから……とペンをとってみたが例の健忘症のおかげで一つも思い出せないので、これはとりやめ、館報のとち込みをめくって書き並べたが次の「町政十大ニュース」だ。夕食後の一家の話題にでもして頂けば幸である。もちろんこの順序はニュース価値の順位を示すものでなく、またこの他にもこれら以上のものがあると思われる。

× × ×

○完全給食の完全実施
町内小中学校全部に完全給食を実施したのは県下でもめずらしい。

○役場の事務改善実施
住民課による窓口の一本化など、住民へのサービスの向上や事務の能率化をはかるため、機構を改め、機械の導入をした。

○東北本線の複線電化にともなう付帯工事の完成
貝田、山根、石母田地内における立体交差や取付道路など一連の工事が完了し、鉄道上側の土地の価値がいちじるしく上昇した。

○グレーダー購入による道路改修
伊達、桑折両町と協同出資をして購入、毎月一週間づつ部落の隈々までガリガリおかげでデコボコ解消。

○公営住宅二〇戸建設
住宅建設五か年計画の才三年事業として山崎北古館に二〇戸の住宅を建て、ベッドタウンの基盤をつくる。

○農協合併大型農協実現
新時代に即応する強力大型農協を実現するため町内六農協を合併した。

○納税成績九九・九％
町民の納税思想が向上し、納税組合関係者の努力がみのって五〇組合中四九組合が一〇〇パーセントの成績を挙げ、総合九九・九パーセントの金字塔を立てた。

○工場誘致条例適用才二号工場来る
専売公社と交換したたばこ集納所を株式会社石原商店に払い下げ、同商店ではこれに麻袋工場を設け、目下四〇名の従業員を擁して営業中である。

○藤田町内に水銀灯
商店街の近代化はまず照明からと、旧式すずらん灯は新式の水銀街路灯に変り、青少年の健全育成にも大なる効果をあげている。

○大木戸公民館建設
大木戸に地先に県表彰まで受けた公民館があったが、体育館建設のため献上したので、その代りのものを一ときも速くとの願いがかなってこの集会所建設となったものである。

議会だより
12月定例議会

一〇議案原案どおり
12月22日午前9時招集され、会期一日と決定し、次の十議案が審議可決された。

一、専決処分につき承認を求めることについて
藤田駐在所建設のための予算で県補助金三〇万円、建設総工費一七〇万円で着工されたもの。

一、福島県市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部変更について
（略）

一、国見町、桑折町有北山組合規約の改正について
これは字句の改正と新たに監査委員設置の条文が付加された。

一、職員の特殊勤務に関する条例の一部改正について
特殊勤務職員としてこれまでの伝染病患者の取扱と税務職員の外に夏季における町営牧場勤務の職員を加えること。

一、国見町営住宅条例の一部改正について
今度建設された源宗山の二十戸を町営住宅とするもの

一、大木戸財産区管理委員選任に同意を求めることについて
大枝佐藤岩吉氏の辞任に伴ない新たに鈴木正氏が選任された。

一、町道廃止について
（略）

一、水道施設事業の変更について
現在の井戸では取水量に不足を来すので才二の補助井戸を四十一年度に増設する。
（予算一千四百三十万円）

一、昭和四十年度国見町上水道特別会計補正予算
才二の補助井戸建設のためのテストボーリング費と設計に要する費用であり、水道の総予算は一千六十三万円となった。

一、昭和四十年度国見町一般会計補正予算
歳出の主なものは大枝農協支所建設補助、道路改修補助金等で今回の補正額は百七十七万円であり総額で一億四千四十三万円となった。

尚請願陳情については次のように処理された。
イ、泉田農道については建設産業両常任委員会に付託。
ロ、街路灯電気料補助は産業常任委員会に付託。

続いて一般質問を行ない、午後二時十七分閉会した。

わが町の人口
（41.1.1現在）

総数	13,019人
男	6,335人
女	6,684人

年頭のごあいさつ
町長　赤井畑　直衛

明けましておめでとうございます。希望にみちた輝かしい昭和四十一年の新春を迎えるにあたり、町民皆様のご健康とご多幸をお祈り申上げると共に、旧年中、町政各般にわたり、深いご理解とご支援ご協力をたまわりました事について心から感謝申上げる次才であります。

昨年は、低温冷害による凶作さえも予想される陰うつなムードでございましたが、幸いに皆様の並々ならぬご努力と、後半持ち直した天候のおかげをもちまして、史上稀に見る豊作となり、町民経済の向上に大きな貢献をもたらしたことは、まことにご同慶にたえないところであります。

しかし、農家経済の他産業に対する格差はますます大きく、殊に金融引締め政策等による中小企業の不振等の基盤の上に立つわが町の経済は決して安堵を許さず、今後ますます皆様のご協力とご努力をお願い致す次才であります。

さて本年度におきましては、昭和四十年度において、なし得なかった農業構造改善事業の計画を速かに完成し、更に町道や農道の整備をして生産の向上に資したいと考えます。また、永年の懸案であった藤田駐在所を移築し、現在の建物を県より交付を受け、これをわが町の産業センターとして利用したいと考えます。次に町勢伸張の基礎は教育にある事を考え、教育施設の充実に努力する考えであります。その他なすべき事はいろいろたくさんございますが、いずれは議会を始め、それぞれの機関を通して実現を図りたいと存じます。

省力で反当10俵
乾田直播栽培の耕種概要

近頃の農業は、新しい機械の導入や農薬の開発によってどんどん近代化がおしすすめられている。しかし、その中にあって、依然として機械化ができないで手間をかけているのが田植の仕事である。その田植時の労働力のピークを切りくずし、ほんとうに農業近代化を導くことのできるのが、水田の乾田直播栽培である。

町では、昭和40年度において、塚野目農事研究会に委託してその試験を行なったのである。

㈠ 事業の概況
(1) 委託団体　塚野目農事研究会（会長菊地惣一氏）
(2) 試験田地名　大字塚野目字矢の目10
(3) 面積　1反4畝26歩
(4) 品種　ササニシキ
(5) 収量　上米　15俵1斗4升5合
　　屑米　2斗5升
　　反当(上米)約10俵1斗2升

成育状況

月日	草丈(cm)
7.10	38.8
〃.20	48.4
〃.30	63.0
8.10	66.1

㈡ 耕種概況

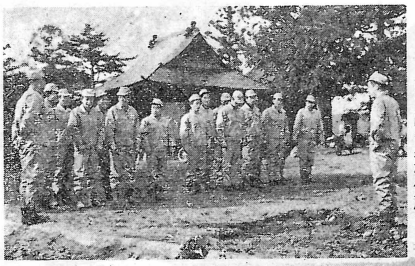
月日	摘要
4.26	播種
5.6	P.L.P水溶剤散布
〃.13	発芽始め
6.7	スタム乳剤散布
〃.13	灌水
〃.23	補植 ガンマ粒剤散布
〃.26	機械除草 バルコン散布
〃.28	除草（手取）
8.4	アリジンM2本散布
〃.15	出穂始め
8.20	出穂揃
9.15	落水
10.1	坪刈
〃.5	稲刈
11.15	脱穀調整

坪刈成績

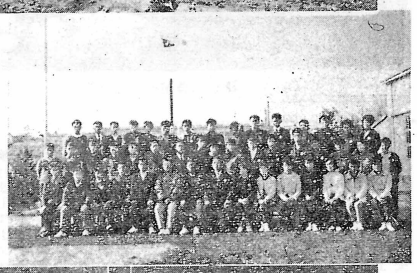
稈長	86.0cm
穂長	18.2cm
茎数	1,584本
総重量	8.5kg
わら重量	5.2kg
もみ重量	3.15kg
反当換算収量	10.7俵

◎明るい生活を築くために――みんなで追放しよう……迷信・暴力・火事・交通事故

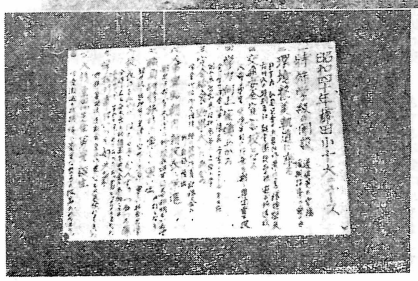
人づくり3題



農村建設班合宿訓練始まる（国見町青年研修所）



青年リーダー講習会（御殿場国立中央青年の家）



藤田小十大ニュース

火の用心出さぬ用心消す用心

いよいよ寒さはきびしくなり、家庭や仕事場での火の使用は最盛期を迎えます。特に二月は例年火災のもっとも多い月です。強い季節風が吹き空気が乾燥して、火になりやすいのです。

火の元はだいじようぶでしようか。タバコの火、コタツの火、ふろばの火をもういちど確かめましよう。プロパンガス、石油コンロの栓はしまっていますか。たき火の後始末を忘れてはいませんか。

お子さんたちの火遊びも火災の大きな原因になっています。テレビも火災のものとになっていることがわかりました。部品が不良だったのを知らずにいたため、過熱して、たまっていたほこりに火がついて火災をひき起したのだそうです。

アイロンをつけぱなしにして、おとなりの奥さんとおしやべりをしていたために火事になった例もあります。

これから石油やガスを使う器具は、よくその使い方を知り、その取扱いが悪いため火事や中毒事故などおこさぬよう、家族全員でつとめると共に、各家庭に小型消火器ぐらいは備え付けておきたいものです。

また、相変らず県内火災原因の上位を占めているところのコタツ、電気器具、取り灰煙突も時々検査をして安全を確めましよう。

わが国見町には、たくさんの動力ポンプや消火栓が備えてあり、有能な消防団員がおりますけれども、それはあくまで火事が起きたのを早く消し止め、被害を最少限度にとどめようとするものであってやはり出さぬ用心が大切ですね。

●出して消すより出さぬがてが
●ポンプ百より用心一つ
●出して泣くより笑顔で用心
●火事を起せば先祖にすまぬ　隣近所になおすまぬ

さあ、一人にも二人にも火の用心です。二、三月はいちばん火災の多い月です。

迷信を打ち破ろう!!

根拠のない丙午（ひのえうま）

「来年は、ひのえうまの年だから、こどもが生まれて、もし女だったら将来、嫁にやりにくくなる……ことしの内にこどもを生んでおこう…」などと、昨年下半期の出生率が高かったとか。

ことしは、そのひのえうまの年に当ります。いまだに地方の農村地帯では、このひのえうま生まれの女の子をいみきらうところがあるようですが、人間の足が月面に立とうという時に、いまさら何年生まれはどうのこうのという時代でもありますまい。こんな伝説こそまさに前世紀の遺物というかむかしむかしのおとぎ話といわざるを得ません。

昨年は二人目のノーベル賞受賞者―物理学者朝永先生―を出した科学日本に、もっともふさわしくない、まことに奇妙なばかばかしい風習が、このひのえうまといえましよう。

元来午年とか巳年（み）（昨年）は、方向をあらわす十二支（ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いの十二）から由来するといわれています。これが動物の名にふりかえられたのは童話の世界で、それが女性の人生に影響を及ぼすなど、全く迷信以外のなにものでもありません。その証拠に明治三十九年生まれ（一まわり前のひのえうま生まれ）の女の人について調べた統計によると、世間でさわがれているようなことは少しもなく、却って夫婦円満で家業繁昌しあるいは社会的にも働いている有名人がたくさんあるそうです。

ことしは遠慮なく女の子を生んでもらって、ぜひこうした迷信の世界を打ち破る年としたいものです。

新春随想

（くにみ第百号を迎えて）

佐藤善次郎

鳥兎匆々ここに昭和四十一年の新春を迎えた。終戦っ子も成人に達したわけである。奇しくもこの期に館報「くにみ」の百号が発刊される。多少の感なきを得ない。一口に百号といっても、昭和二十九年町村合併によって国見町が誕生し、それと同時に第一号が発刊されて以来ここに星霜十年、迂余曲折を経て、一面町報的性格も加味され、町民各位にも親しまれ、現在では県内で押しも押されもせぬ館報にまで成長した。

世に三号雑誌という言葉がある。こうした印刷物の長続きしない意を寓した言葉であるが、百号を出すまでになっては、まずその基礎が固まったとみてよいであろう。それにつけても「くにみ」の発行を物心両面にわたって支援してくださった皆様に、心から感謝の意を表するものである。

同時に、編集という煩雑な仕事を一手に引き受けて、原稿の収集から割付け校正まで、更にその利用の点までご指導くださった編集部員のご苦労に対して、深く敬意を表したいと思う。

今後は更に精進を重ね、館報としての使命達成に邁進する所存である。町民の皆様の一層のご支援とご協力を念願するものである。

◇◇◇

戦後も、満二十年といわれると、その早いのに全く驚くのである。早いとかおそいとかは、むろん人によって感じ方が違うであろうが、少くとも今度の戦争に何等かのかかわりで関係したと思う人にとっては、その前後のあわただしさのために、歳月が飛ぶように経ったと感ずる人が多いことであろう。今更ながら時の流れの早いのに驚くのである。

「月日は百代の過客にして、行きかう年も又旅人なり」これは芭蕉の「奥の細道」の書き出しの名文である。「人は再び同じ川の流れに足を洗うことができない」これもギリシヤの哲学者の誰かの言葉であることを記憶していること。こうした水の流れに譬えられる「時」の流れに棹さす人生に、時には棹の手を休めて過去を偲び、将来の行くてを考える必要があるのではないだろうか。つまり自分の生活に一つのけじめをつけることによって、人生への希望と生を肯定する勇気が湧いてくると思う。人間性には「慣れる」という悪い癖がある。しあわせに慣れればしあわせを意識しなくなり不幸に慣れれば人間本来の目的である幸福追求の気持さえ薄らぐ。生活に慣れれば単なる惰性で生活する事になり発展性がない。これでは人生の価値が低下するばかりである。こうした人生に、是非一つの折目を正す時期が必要になってくる。その時期を私は「正月」に求めたいのである。又正月が最も適当な時期でもあると思う。こうする事によって正月の意義が明瞭になり又存在価値も深まると思う。ともあれ、昭和四十一年が明るい良い年であるよう念願せずにはおられない。

老人を大切にしましよう（六）

霊位の尊崇を拒まない

家族制度の中に生きてきた老人は、先祖の霊位を尊ぶものです。そのことはまた家族果代の信仰してきた宗教にもつながるものです。現在もふさわしくない、まことに奇妙なばかばかしい風習が、このひのえうまといえましよう。

元来午年とか巳年（み）（昨年）は、方向をあらわす十二支（ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いの十二）から由来するといわれています。これが動物の名にふりかえられたのは童話の世界で、それが女性の人生に影響を及ぼすなど、全く迷信以外のなにものでもありません。その証拠に明治三十九年生まれ（一まわり前のひのえうま生まれ）の女の人について調べた統計によると、世間でさわがれているようなことは少しもなく、却って夫婦円満で家業繁昌しあるいは社会的にも働いている有名人がたくさんあるそうです。

ことしは遠慮なく女の子を生んでもらって、ぜひこうした迷信の世界を打ち破る年としたいものです。

老人の健康を守ること

健康ということは、身体的健康、精神的健康、社会的健康を意味するのですが、それは並立しているのではなく一体です。とりわけ身体的に不健康であることは、精神的にも不健康ですし、精神的な不健康は身体的な不健康を呼び起こすものです。

近頃、成人病といわれるものに脳卒中とかガンとかいうものが多くなっています。また、老人には気のつかない高血圧とか、糖尿病とか肺気腫とかいうものも多いので、知らず知らずに体を悪くしている場合があるのです。ですから日頃から健康診断をうけさせるようにすることが大切です。それにはまた精神的な健康診断も必要です。精神的な健康診断といえば、精神科の医師ということになるのですが、それが困難な場合は、手近かに何でも相談できるような、社会的機能をもつ相談施設を利用させることです。「病は気から」といわれるように特に老人の不健康には心理的な作用が大きいのですから、老人に心配させないということが、健康を守るにいちばん大切なことなのです。

また、老人向きの良質の栄養をとらせるようにしたり、日当りのよい部屋をあたえたり、とかく引きこもりがちな老人を日だまりにつれだして新鮮な空気にふれさせ、老人の心気が爽快になるよう配慮することが必要です。

あげ供物を捧げて礼拝する姿を、時代的でないといって非難してはいけないのです。老人には、家を通じて祖先や、したがってまた、宗教につながる心があるのです。それを笑ったり、拒んだりすることは、老人には堪えがたい淋しいことであり、また若い者に対する抵抗心を増すことになるばかりで、何の利益もないことです。

「くにみ」創刊号から保存

森山の目黒角次郎さんは、館報「くにみ」を創刊号から一部もれなく保存しておられるものとして子孫に残しているのだそうです。ほかに、お持ちの方があったら事務局にお知らせください。

「くにみ」の履歴書

昭和30・1・25　創刊号発行
四ページ　編集委員長佐久間幸雄　委員野村和夫　稲村克巳　阿部恒夫　吉田貞造　大津隆男
同30・10・1　町報を合せて四ページの第二号発行
公民館に広報部をおき、もっぱら館報編集に当る。
部長東海林忠一　部員佐久間幸雄　野村和夫　大津隆男　阿部恒夫　玉手忠一　瀬戸栄一
同31・3・25　第三号発行
同31・9・1　第四号発行
同32・2・1　第五号発行
同32・6・15　第六号発行
同32・10・1　第七号発行
同33・5・15　第八号発行
これより毎月十五日発行
とし鈴木美一責任者となる。

スキー講習会へどうぞ

小坂スキー場開設と同時に始めたスキー講習会も今年で第四回を迎えました。「安全で楽しくすべれる」「初心者にも親切に教えられる」というのでこぶる好評です。

左記により実施いたしますから皆さま多数ご参加ください。

記

一、日時
2月6・20日
午前10時～午後3時
二、場所
小坂スキー場
三、講師
全日本スキー連盟公認指導員　佐藤元一先生
外有級者
四、集合場所
小坂スキー場10時まで
五、その他
昼食、着替の下着くつ下、防寒具等持参すること。
主催　国見山友会
後援　国見町公民館
国見町体育指導委員

ご協力で歳末たすけあい

歳末たすけあい運動実施期間中は、町民の皆様より、温い心のこもった多くの金品のご寄贈にあづかり、次のように好成績を収めることができました。皆様のご厚情を深く感謝申し上げます。

現金　一〇五、三四五円
白米　七升
この寄贈金品の配分については、民生委員協議会において受給者を決定し、次のように配分いたしました。
生活困窮者　七七世帯（二二二人）
社会福祉施設入所者　一九人
長期入院患者　二〇人
（住民課より）

編集後記

○新年おめでとうございます。ことしも明るいニュースがたくさんあるよう祈ります。

○「くにみ」もおかげさまで一〇〇号を迎えました。ありがとうございます。

○「農業者もべんきようしなさい」と角田先生は申されました。お父さんお母さんもっと勉強しましよう。

○ワッショ、ワッショ、ワッショ、ワッショ、新しい町づくりに挺身する若人のかけ声をききながらペンをおきます。（鈴木生）